

2008年度 NGO・外務省定期協議会
第1回ODA政策協議会

援助はいったい誰のもの？ (意見交換)

加藤良太

関西NGO協議会 提言専門委員

この議題の目的

- ODAをめぐる諸アクター間の対話喚起 →
まずは、NGO・外務省から・・・
- ODA・開発に関する理念・価値観をここできっちり
対話・意見交換しておく
- 途上国の住民・日本の市民の「参加」を促進して
いくための意見交換

→継続して意見交換、勉強していくスタート

論 点

- 「途上国住民の利益」「日本の市民の支持」の内容と質
- あらためて「住民主体の開発」とは何か
- なぜ日本の市民・NGOがODAに関わるのか
- NGOと外務省の政策対話の果たす役割

論点1

「途上国住民の利益」
「日本の市民の支持」
の内容と質

ODA・開発協力に重要なこと

「最終的な利益は途上国住民に」

「ドナーたる日本の市民の支持」

→NGOも外務省も同意するだろう

～しかし～

指している「内容と質」が違うのでは？

「途上国住民の利益」

- これまでのODA
 - トリックルダウン、結果論としての利益
- NGOの考え
 - 途上国の開発政策の立案、実施、プロセスへの参加
 - 援助効果や施設等の維持・管理が持続可能なものであるか
 - 開発政策プロセスへの参加自体がエンパワメントになったか

予想される反論1

- 身軽で動きやすいNGO・住民組織の言い分ではないか？

→日本国内の公共事業再評価 河川
法改正にみる地域開発の住民参加・管理時のア
セスなど

→開発をめぐるガバナンスの潮目は 国内
外ともに変わりつつある

予想される反論2

- ODAは国対国、要請主義だから相手国の国内政策には踏み込めない

→本当にそうだろうか？ 日本のODAのやり方が途上国の開発政策に大きな影響をあたえてきたのでは？

→日本として、ODAの理念、体制、スキーム、評価をきっちり整えることで、途上国住民の利益の「質」を向上できるのでは？

論点2

あらためて「住民主体の開
発」 とは何か

→詳しくは池田さんのプレゼンに譲ります。

論点3

なぜ日本の市民・NGOが
ODAに関わるのか

「日本の市民の支持」の内容と質

- いまのODAのやり方への肯定的支持
→どうしてもこれを有り難がりがち
- 批判的支持(?)／政策代替案を伴う支持
- 途上国住民の代弁者としての発言
→市民・NGOの得意とするところ
→こうした「支持」を恐れてはならない

むしろ「無理解」「無関心」がこわい

「参加」ということ

- 肯定・否定、さまざまな立場を包容する
- 初めから意思決定を目的としない
- 声なき声、小さな声を聞く努力をする
- その場に居合わせない人のことを想起する



- まさに開発において重要な事柄
- NGOがコーディネートを得意とする分野
- 参加を通じて「支持」の質も向上する

論点4

NGOと外務省の政策対話の 果たす役割

- ODAに関する政策過程のディスクローズ
→NGOが翻訳者、パスファインダーとなる →
市民の意識向上、参加促進への道筋
- 日常的な「政策のタネ、タマゴ」の蓄積 →アイ
ディアのつまみ食い、援助関係者に 都合のい
い情報・提案だけではなく、 多面的な議論を
日常的に蓄積することで、 打てる政策の引き出
しが確実に多くなる。
- 政策過程そのものの変容に向けた、市民・NGO
と共にするトレーニング

以 上